

あいち農産物生産流通レポート

2024年8月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ 高温期における白色バラ「アバランチェ+」の収穫後に発生する花色変化の要因と対策 (農業総合試験場)	1
◎ 東日本情報	
・ 京浜市場愛知県野菜連絡会が秋冬野菜販売反省会を開催 ・ ～ 令和6年秋冬作に向けて卸売会社から産地への提言が行われました～ (東京事務所)	3
◎ フラワーページ	
・ 花き産地整備事業の実施状況について (園芸農産課)	6
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	9
・ 名古屋・東京市場における青果物の8月の見通し	10
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の8月の見通し(県内市場)	22

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

高温期における白色バラ「アバランチェ+」の 収穫後に発生する花色変化の要因と対策

農業総合試験場

白色1輪咲きタイプのバラ「アバランチェ+」は世界中で広く生産される主力品種で、花色が純白であることから、年間を通してブライダルや葬儀などの業務需要を中心に多く使用されています。

しかし近年、県内の産地で8～9月の高温期を中心に、当品種の花色が収穫後にベージュや淡いオレンジに変化し、市場や実需者からクレームが寄せられる事例が発生していました。この現象は、栽培期間中の高温遭遇が主な要因と考えられていましたが、収穫後の扱いも影響している可能性があります。また、高温期は開花の進みが早く、蕾が固いうちに収穫するため、選花の段階で花色変化の判別が難しく、出荷後の流通または消費段階で開花がある程度進んでから、花色変化が判明することも問題でした。

そこで愛知県農業総合試験場では、高温期の「アバランチェ+」で収穫後に花色変化が発生する要因について解明するとともに、生産現場で活用できる対策技術の開発に取り組みました。



白色バラ「アバランチェ+」の収穫後に発生する花色変化
左：正常な花色のもの 右：花色が変化したもの

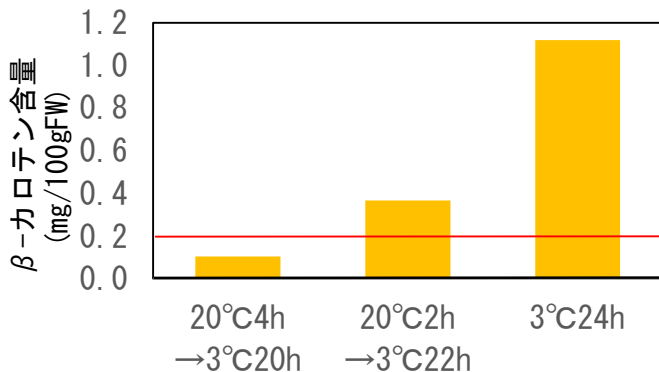
1 花色変化の原因と発生しやすい条件

はじめに、花卉から抽出した成分を分析することによって、「アバランチェ+」では黄色系の色素の一種であるβ-カロテンが花卉に蓄積することで、花色変化が生じることを明らかにしました。そして、様々な条件で栽培・収穫および収穫後の管理を行った後の花卉を分析した結果、花卉におけるβ-カロテンの含有量には、栽培期間中の気温だけでなく、収穫後の切り花に対する水あげ管理や、収穫を行う時間帯も影響していることもわかりました。

2 栽培管理や収穫後の処理が花色変化に及ぼす影響

温度条件について、栽培期間中の最低気温が連続して23℃以上となる場合に花卉からβ-カロテンが検出されるようになり、その蓄積量は温度が高いほど多くなりました。また、高温期に栽培した切り花を収穫後すぐに冷蔵庫で保管して3℃の低温条件下で

水あげすると、その後観賞を想定した 25°C条件で開花が進む間に β -カロテン含量が高まり、花色変化が目立つようになりました（図1）。一方、収穫直後に 20°Cの条件で一定時間水あげを行ってから冷蔵庫へ移して保管した場合には、開花が進む間の β -カロテン含量の増加が抑えられ、20°Cで4時間以上水あげを行うことで、花色変化を感じない程度になりました。



20°C4h→3°C20h 3°C24h
 (両者前日の朝方(9時頃)収穫)

図1 収穫後の水あげ温度や時間が
 花卉の β -カロテン含量に及ぼす影響
 (朝方の同じ時間に収穫)

注：グラフ中の赤いラインは、花色変化が見た目で判別できる β -カロテン含量の目安

次に、収穫時間帯について、日の出 2～4 時間後の朝方に収穫した場合は花卉の β -カロテン含量が高く、日の出 10 時間後の夕方から日の出 2 時間前の夜間に収穫した場合は花色変化を感じない程度の低い β -カロテン含量となりました。この結果をふまえ、一般的に生産現場で収穫が行われる時間帯として 9 時、16 時を朝方、夕方と設定して調査した結果、夕方収穫では前日朝方収穫に比べて低い β -カロテン含量でした（図2）。

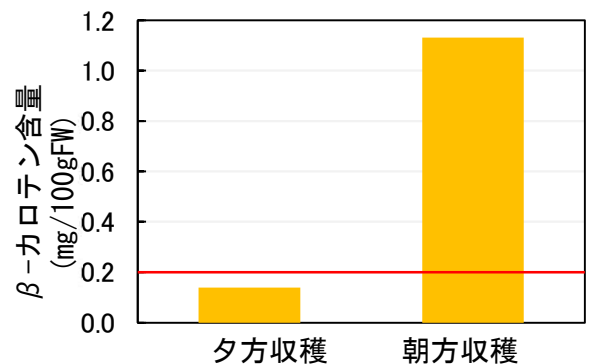


図2 収穫時間帯が花卉の β -カロテン
 含量に及ぼす影響
 (収穫後は 3°Cで保管)

注：グラフ中の赤いラインは、花色変化が見た目で判別できる β -カロテン含量の目安

3 花色変化の対策技術

以上の結果を踏まえ、高温期における「アバランチェ+」の生産において収穫後に発生する花色変化を抑えるためには、まず温室内の夜温が 23°Cを下回るよう管理することが有効ですが、高騰するコストの面などから実際には困難です。したがって、収穫時間帯の調整や収穫後の水あげ温度を調整する方法が、より生産現場において実践しやすい技術であると考えられます。

具体的には、収穫をなるべく夕方の時間帯、16 時を目安に行う、もしくは朝方に収穫を行う場合には、切り花をすぐに冷蔵庫で保管するのではなく、作業場など 20°C以上の環境で 4 時間以上水あげを行ってから、冷蔵庫へ移して保管する、などが有効な手法であると考えられます。

(本研究は農林水産省「持続的生産強化対策事業」の助成を受けるとともに、農業・食品産業技術総合研究機構の協力のもと実施しました)

京浜市場愛知県野菜連絡会が秋冬野菜販売反省会を開催

～ 令和6年秋冬作に向けて卸売会社から産地への提言が行われました ～

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

令和6年7月2日（火）にアリスアクアガーデン品川（東京都品川区）において、京浜市場の青果卸売会社28社で構成される京浜市場愛知県野菜連絡会（以下「野菜連絡会」という。）の秋冬野菜販売反省会（以下「反省会」という。）が開催されました。

反省会では令和5年秋冬作の6月までの野菜出荷に対する情勢報告及び令和6年秋冬作に向けた産地への提言が行われたので、その内容について紹介します。

1 令和5年度の秋冬野菜の実績と出荷動向

J Aあいち経済連の京浜・関東市場における取扱実績が報告され、令和5年度は数量85,045 t（前年比96%）、金額233億円（同98%）となりました。品目別数量の第1位はキャベツで51,832 t（同95%）、以下トマト8,803 t（同97%）、ミニトマト5,609 t（同97%）、ブロッコリー5,247 t（同95%）、おおば1,935 t（同108%）でした。

令和5年秋冬作は、夏場の高温によりキャベツ・トマト・レタスで定植が遅れ、出荷開始が例年よりも遅れましたが、年内に生育が回復して前進出荷傾向になりました。年明けも順調に出荷されると思われましたが、2月の急激な気温変化と3月の低温により、例年3月に増量する分が4月と5月にずれ込み、3月～5月は山谷の少ない出荷となって単価が保たれました。



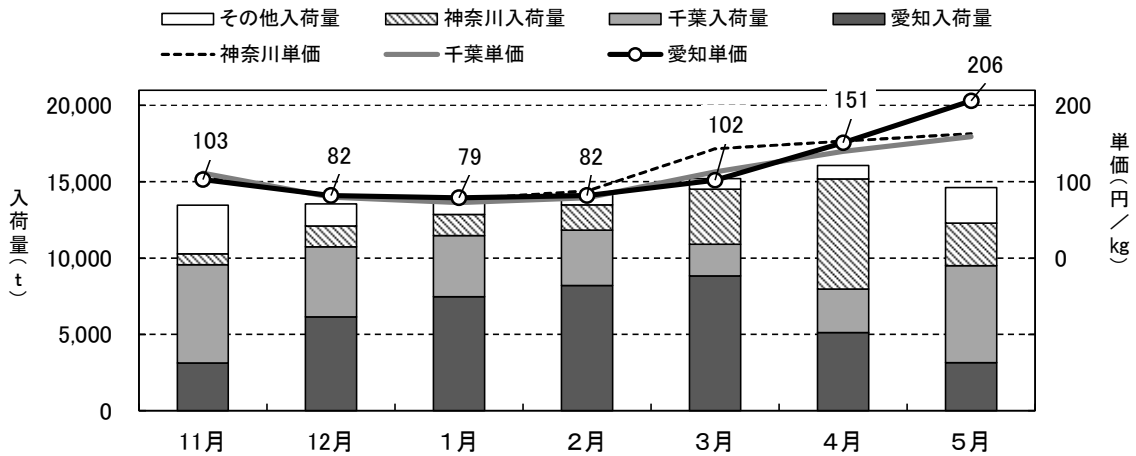
京浜市場愛知県野菜連絡会が開催した秋冬野菜販売反省会

2 キャベツ、トマト・ミニトマト、ブロッコリーの情勢報告及び本県産地への提言

野菜連絡会には、本県の主要品目であるキャベツ、トマト・ミニトマト、洋菜の研究会が設けられ、品質査定会や産地調査等が行われています。反省会では各研究会の会員会社から情勢報告及び本県産地への提言が行われました。

(1) キャベツ

キャベツの産地別入荷量と単価の推移

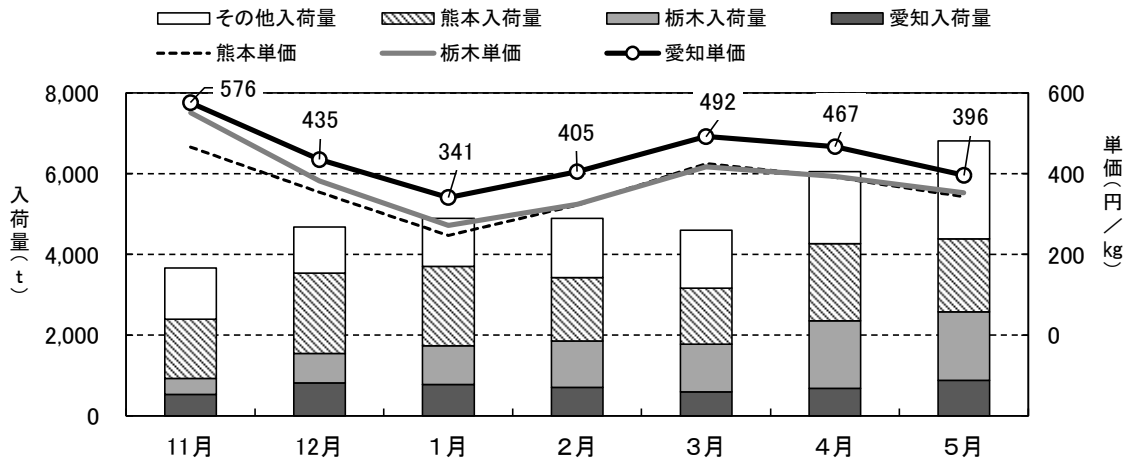


昨年同様、年内販売は夏秋産地（群馬県、長野県、岩手県）が前進出荷で早く終了し、後続産地の茨城県は夏期の高温・干ばつのため例年より一週間ほど出荷開始が遅れ、秋冬産地（愛知県、千葉県、神奈川県）は高値でのスタートとなりました。12月上旬まではスムーズな荷動きでしたが、12月中旬以降、千葉県、神奈川県産の入荷が想定よりも増加して販売に苦戦しました。年明け以降も年末の在庫が多くあり、暖冬での前進出荷も重なり、2月末まで販売苦戦が続きました。3月以降は気温が低下し雨量も多かったため、前進出荷にブレーキがかかり相場は回復し、愛知県産を京浜地区でも販売していく中で高値となりました。

本県は神奈川県、千葉県と競合しているため、販売シェアを安定させるためには京浜地区の固定顧客の拡充が必要となっています。このため、出荷期間中の販売数量と価格を決める「定量定価販売」や特定期間の販売数量と価格を決める「特注（特別注文）」、加工業務の価格等の見直しを産地と市場で行っていく必要があるとの提言が出されました。市場からは、系統出荷（JAや経済連を通じた共同出荷）ならでの販売や分荷による固定顧客の確保が求められています。

(2) トマト

トマトの産地別入荷量と単価の推移



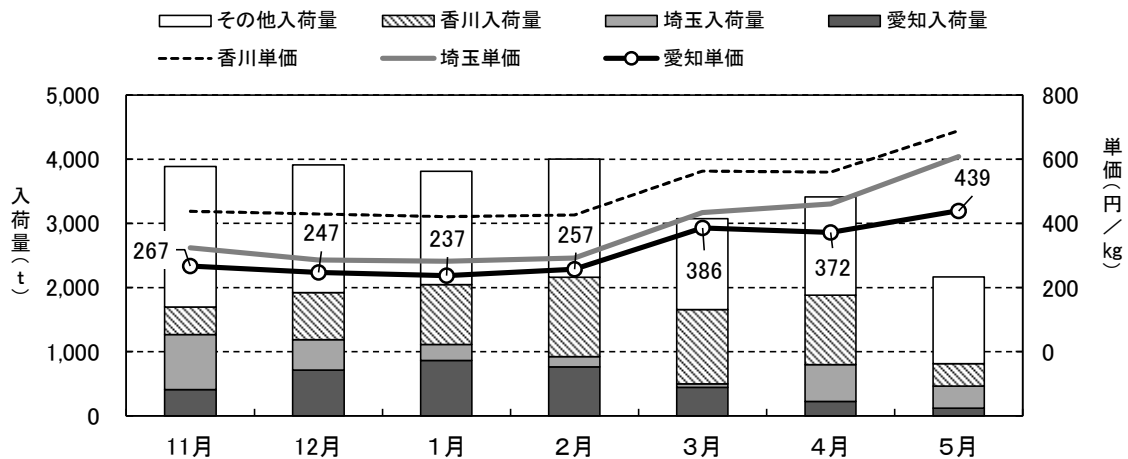
全国的な猛暑のため夏秋作や抑制作の着果が非常に悪く、11月は例年よりも出荷量が少なくなり、過去にないほどの高値となりました。12月～2月は各産地の出荷量が増加したため11月までの高値の反動で単価が下落し、加えて厳寒期は消費量が少ないため、販売苦戦が続きました。

ゴールデンウィークは出荷量の増加も緩やかだったため、スムーズな販売となりました。5月中旬以降は、野菜の多くの品目において数量減のため、高値での販売展開となり、トマトも同様となりました。

トマトは生食で食べる文化が根強く、厳寒期は相場が低迷して販売苦戦が強いられるとのことで、新たな食べ方を提案する等の需要喚起を促す施策が必要であるとの提言が出されました。また、暖候期は九州等の他県産と競合するので、愛知県産の高い品質を維持してほしいとの意見も出されました。

(3) ブロッコリー

ブロッコリーの産地別入荷量と単価の推移



ブロッコリーは、年内や年明けの気温が高く生育が非常に前進化しました。3月になると急激な気温変化が生育に影響して数量が減り、4月～5月は高値が続きました。

近年、競合産地は「ストックコントロール」に取り組む動きがあり、発泡スチロール、氷詰めはもとより、冷蔵庫の活用や需要の多い週末に出荷を集中させるなど、マーケットの要望に合わせた出荷に取り組んでいます。以前から、愛知県産は発泡スチロール出荷ではない、氷が入っていない、ということが課題として挙げられていますが、ここ数年伸びてきた産地では経費が随分かかっているそうです。このため、愛知県がそのような事態にならないように現状は様子見にするべきとの提言が出されました。一方で、春先の4月以降については、発泡スチロールと似た出荷に取り組まないと品質が維持できないのではないかと意見も出されました。

その後の意見交換では、生産や輸送等のコスト上昇分を十分に価格転嫁できていない状況について各社から改善が必要との意見が相次ぎました。解決の難しい問題ではありますが、県としても必要な情報収集に努め、野菜連絡会やJAあいち経済連等の関係機関と共に状況改善を模索していきたいと思っております。

花き産地整備事業の実施状況について

園芸農産課

本県は1962年以降、61年連続して全国一位の花き産出額を誇り、切り花・鉢花とも多様な品目を生産する「花の王国」です。

しかし、県内の多くの花き集出荷貯蔵施設は老朽化が進んでいると共に、高齢化に伴う利用者減少で利用率が低下しています。また、選花施設の能力不足や冷蔵施設の容量不足による有利販売の機会損失、物流の2024年問題への対応等も課題となっています。

このたび、本県の花き主要産地であるJA愛知みなみ及びJAひまわりにおいて、強い農業づくり総合支援交付金を活用し、施設利用率向上に向けた集出荷貯蔵施設の再編整備を実施しましたので紹介します。

1 事業概要

実施主体	JA愛知みなみ	JAひまわり
事業名	強い農業づくり総合支援交付金	
実施年度	令和4～5年度	令和5年度
事業費	3,596,890千円 (国費補助金額 1,584,077千円)	2,306,700千円 (国費補助金額 1,014,134千円) (市費補助金額 101,413千円)
事業内容	<p>花き集出荷貯蔵施設の再編</p>	<p>花き・青果集出荷貯蔵施設の再編</p>
実施場所 及び整備内容	<ul style="list-style-type: none"> ○渥美花き総合出荷場 (田原市長沢町) …冷蔵施設、バラ受け機械装置一式、システム ○田原・赤羽根花き総合出荷場 (田原市赤羽根町) …冷蔵施設、バラ受け設備、加工場、システム 	<ul style="list-style-type: none"> ○総合集出荷センター (豊川市三上町) …建屋、バラ受け設備(主にスプレーギク)、荷受けライン、大葉加工室、冷蔵施設、システム

実施主体		J A 愛知みなみ	J A ひまわり
主な取組	バラ受け施設による省力化	○ (新設・既存施設の機能向上)	○ (新設)
	冷蔵施設を利用した品質保持	○ (新設・拡充)	○ (新設)
	物流の効率化	○ (施設再編、横持出荷場の集約)	○ (施設再編)

2 効果

(1) バラ受け施設の利用による省力化

バラ受け施設の新設等により、生産者によって行われていた出荷調整作業を（選別・結束・箱詰め）を J A に委託することができ、生産者の出荷調整作業時間を削減することができました。

(2) 冷蔵施設を利用した品質保持

冷蔵施設の新設や拡充により、適した温度での保管が可能となり、母の日やお盆等の出荷量の多い需要期でも品質維持ができるようになりました。

(3) 物流の効率化

集出荷施設の再編や横持集荷場の集約により、集荷・配送ルートが合理化され、輸送費の削減や積載率の向上を図ることができました。

3 今後

利用計画に基づいた円滑な施設運用を関係機関と連携して支援することで、産地の生産力強化を図ります。また、いずれの産地においても輸出事業計画を策定していることから、本事業で整備した施設を活用して輸出が進められるよう支援していきます。



バラ受け機械装置
(JA 愛知みなみ)

愛知産青果物の動向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ±1%台以下
 わずか : ±2%台以内
 や や : ±3～5%台
 かなり : ±6～15%台
 大 幅 : ±16%以上

○ 名古屋市中心卸売市場（品目：巨峰）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
2023年実績	443	55 (11%)	1,373	1,237	山梨 (47%) 長野 (40%) 愛知 (12%)
2024年見通し	420	—	1,450	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
【概要】 ぶどうの作付については、巨峰は減少、シャインマスカットは増加となっており、巨峰の入荷は前年をやや下回る見込み。 生育は順調であるが、梅雨明け後の高温による着色不良が懸念される。 【見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△5.2%) 価 格：前年をやや上回る。(5.6%)			黒系品種の巨峰は根強い人気があるので、作付を維持して欲しい。入荷が少なく、業務用に回らない状況である。 長年の栽培技術をもって、引き続き品質のよい巨峰づくりをお願いしたい。		

○ 東京都中央卸売市場（品目：いちじく）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
2023年実績	771	334 (43%)	1,156	1,325	愛知 (43%) 和歌山 (23%) 静岡 (11%)
2024年見通し	760	—	1,170	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
【概要】 愛知を中心に和歌山、静岡などからの入荷となる。生産者減や高温・降雨の影響も受けて入荷量は減少する見込み。 【見通し】 入荷量：前年並。(△1.4%) 価 格：前年並。(1.2%)			愛知県産は入荷量が多く品質も良いため、量販店から支持されている。検品をしっかりと行い品質の維持を図るとともに、等階級別選果の徹底に努めてほしい。 いちじくは京浜地区でも夏から秋の果物として定着している。生産者の高齢化等により生産規模が縮小傾向であるが、産地の維持・拡大をお願いしたい。		

名古屋・東京市場における青果物の8月の見通し

名古屋市中央卸売市場

7月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2019年	33,761	221	218	232	217	北海道 33%
	2020年	33,430	274	306	277	245	長野 24%
	2021年	34,512	215	196	202	241	群馬 10%
	2022年	31,944	237	227	247	239	岐阜 6%
	2023年	31,586	242	239	240	245	兵庫 5%
	5カ年平均	33,047	238	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	31,200	242	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>数量 t</p> <p>単価 円/kg</p> <p>9 10 11 12 1 2 3 4 5 6 7 8 月</p> <p>— 昨年数量 — 本年数量 ● 本年単価 — 昨年単価</p>					
<p>北海道、長野を中心に入荷する。北海道は生育順調で、出荷安定している。葉菜類や果菜類は高温による品質不良により、出荷量が減少する可能性がある。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(△1.2%) 価格：前年並。(0.2%)</p>							
だいこん	2019年	1,538	97	85	125	99	青森 47%
	2020年	1,474	116	110	118	123	北海道 39%
	2021年	1,674	92	83	102	98	岐阜 12%
	2022年	1,370	141	151	151	128	長野 1%
	2023年	1,479	107	97	111	117	
	5カ年平均	1,507	110	104	121	112	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	1,400	115	110	115	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>数量 t</p> <p>単価 円/kg</p> <p>9 10 11 12 1 2 3 4 5 6 7 8 月</p> <p>— 昨年数量 — 本年数量 ● 本年単価 — 昨年単価</p>					
<p>北海道、青森ともに面積減で例年より入荷が減少する見込み。岐阜はやや微増で順調な入荷を見込む。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△5.3%) 価格：前年をかなり上回る。(7.5%)</p>							
にんじん	2019年	1,967	139	129	132	149	北海道 97%
	2020年	2,369	154	195	139	126	青森 3%
	2021年	2,114	133	123	133	142	
	2022年	1,734	147	136	139	172	
	2023年	1,692	155	142	148	174	
	5カ年平均	1,975	145	147	138	150	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	1,700	150	150	150	150	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>数量 t</p> <p>単価 円/kg</p> <p>9 10 11 12 1 2 3 4 5 6 7 8 月</p> <p>— 昨年数量 — 本年数量 ● 本年単価 — 昨年単価</p>					
<p>北海道は生育良好で入荷は順調な見込み。但し、小玉中心と予想される。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.5%) 価格：前年をやや下回る。(△3.2%)</p>							

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

7月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2019年	1 2 6, 3 3 0	2 4 0	230	246	245	北海道 26%
	2020年	1 1 8, 7 1 4	3 0 8	343	318	276	群馬 18%
	2021年	1 1 7, 9 3 2	2 4 2	215	233	271	長野 16%
	2022年	1 1 3, 0 2 4	2 5 9	258	262	258	岩手 6%
	2023年	1 1 0, 9 8 8	2 7 2	268	266	280	茨城 6%
	5ヵ年平均	1 1 7, 3 9 8	2 6 4	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	1 1 2, 0 0 0	2 7 0	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 北海道産のにんじん、ばれいしょ、たまねぎの入荷が本格化。北日本の一部品目は高温・干ばつで生育不良気味である。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.9%) 価格：前年並。(△0.7%)							
だいこん	2019年	8, 2 3 6	9 5	79	114	95	北海道 60%
	2020年	7, 6 7 5	1 1 5	107	115	121	青森 29%
	2021年	7, 3 3 0	9 3	83	102	94	群馬 6%
	2022年	6, 7 9 3	1 3 8	151	131	132	岩手 3%
	2023年	6, 2 2 2	1 0 9	94	112	119	神奈川 2%
	5ヵ年平均	7, 2 5 1	1 0 9	102	115	111	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	6, 2 5 0	1 0 0	95	105	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 入荷先の主体は北海道、青森となる。北海道産は高温のため2L比率はやや低い傾向であるが、安定した入荷が見込まれる。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.5%) 価格：前年をかなり下回る。(△8.3%)							
にんじん	2019年	7, 2 1 5	8 9	84	82	97	北海道 93%
	2020年	6, 9 8 3	1 5 6	213	146	122	中国 2%
	2021年	6, 3 3 0	1 3 2	122	127	139	青森 2%
	2022年	5, 6 7 0	1 4 4	137	138	158	千葉 2%
	2023年	5, 0 6 0	1 5 3	143	148	164	
	5ヵ年平均	6, 2 5 2	1 3 3	140	126	133	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	5, 1 0 0	1 5 2	150	155	150	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 入荷先の主体は北海道となる。生育は概ね順調。上旬は入荷量が多くなるため、相場は軟調気味となる見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.8%) 価格：前年並。(△0.7%)							

名古屋市中央卸売市場

7月16日 現在

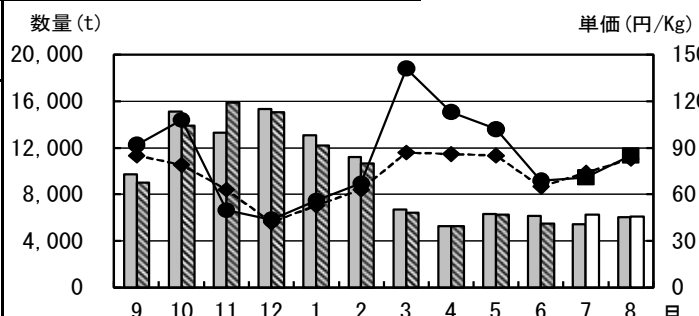
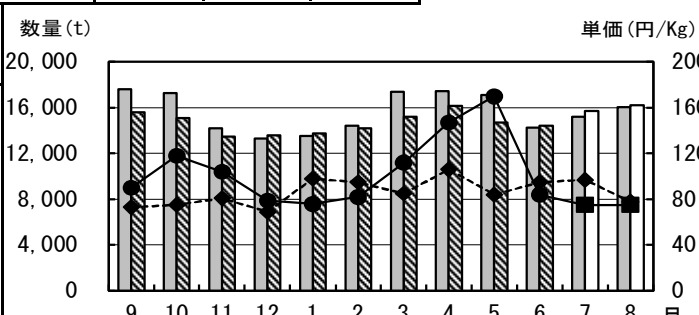
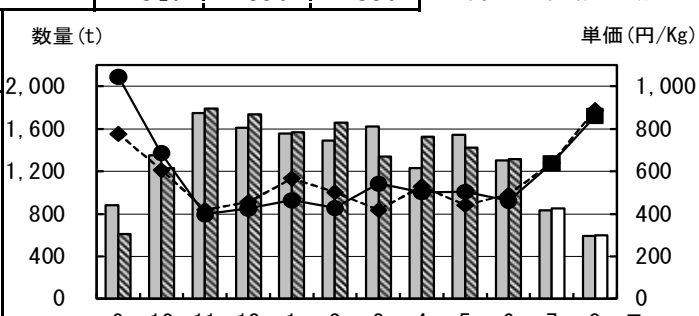
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうろく	2019年	1,524	122	158	105	107	長野 100%
	2020年	1,519	154	158	169	139	
	2021年	2,049	84	68	75	104	
	2022年	1,940	68	62	70	75	
	2023年	1,751	88	85	99	83	
	5カ年平均	1,757	100	101	100	100	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	1,800	78	70	80	85	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野は生育順調で入荷も順調な見込み。加工業務用の歩留まりが良く、注文がやや減少。8月後半から売場が秋商材に変わるため、相場はやや上向き基調。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに上回る。(2.8%) 価格：前年をかかなり下回る。(△11.4%)</p>					
さい							
キヤベツ	2019年	4,322	100	114	108	91	群馬 70% 長野 18% 北海道 8% 岩手 2% 香川 2%
	2020年	3,535	151	146	154	157	
	2021年	4,809	79	78	81	81	
	2022年	4,223	78	79	82	77	
	2023年	4,392	86	91	93	80	
	5カ年平均	4,256	96	99	101	95	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	4,300	80	80	80	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、長野は生育良好で順調な入荷を見込む。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに下回る。(△2.1%) 価格：前年をかかなり下回る。(△7.0%)</p>					
べ							
ほうろ	2019年	137	853	848	846	886	岐阜 96% 長野 2% 愛知 1%
	2020年	179	799	842	779	810	
	2021年	187	771	677	747	958	
	2022年	152	821	732	868	986	
	2023年	159	865	732	868	986	
	5カ年平均	163	819	763	817	924	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	150	850	800	850	900	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>7月の高温の影響で播種がうまくいかず、8月は入荷の減少が見込まれる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△5.7%) 価格：前年並。(△1.7%)</p>					
そ							

東京都中央卸売市場

7月31日 現在

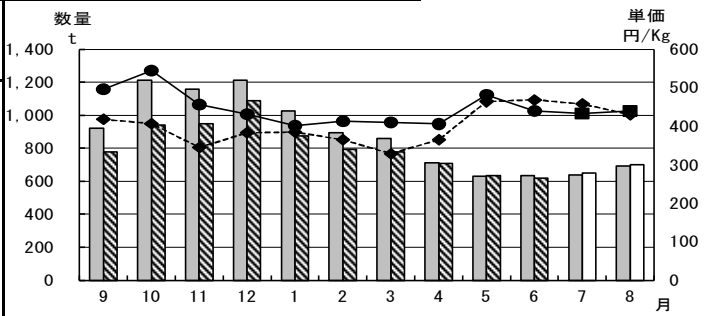
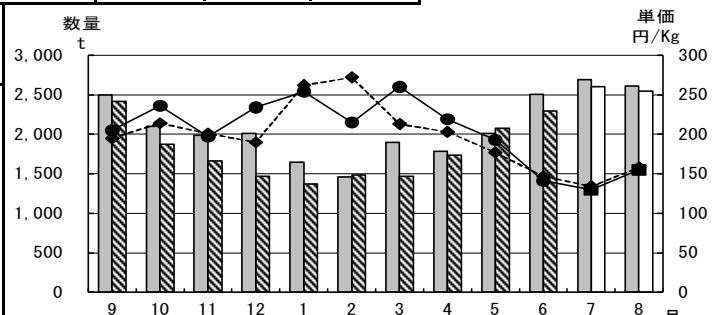
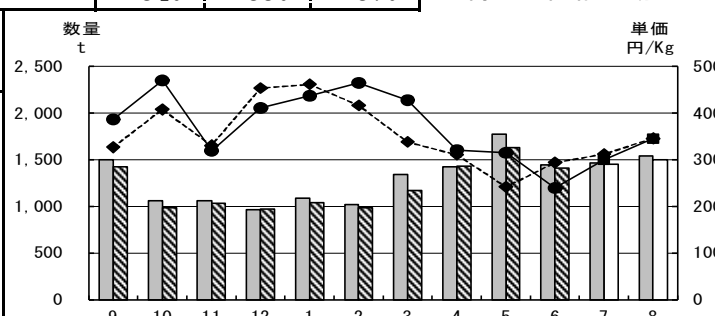
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	2019年	7, 263	86	74	74	105	長野 97%
	2020年	5, 555	171	164	205	142	群馬 3%
	2021年	7, 258	82	63	69	103	茨城 1%
	2022年	6, 276	59	54	59	64	
	2023年	6, 070	83	82	96	75	
	5ヵ年平均	6, 484	94	85	97	97	
	2024年見通し	6, 100	85	95	80	80	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t) 単価(円/Kg)				
	【産地状況】 入荷先の主体は長野となる。高温・干ばつ傾向のため、生育の鈍化、結球への影響が見られ、上旬は入荷量が少ない見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.5%) 価格：前年をわずかに上回る。(2.4%)						
キャベツ	2019年	16, 671	100	86	113	104	群馬 79%
	2020年	15, 510	166	152	176	168	岩手 14%
	2021年	16, 714	74	73	77	74	長野 6%
	2022年	16, 898	69	68	72	66	北海道 1%
	2023年	16, 052	78	82	85	71	千葉 1%
	5ヵ年平均	16, 369	96	91	104	96	
	2024年見通し	16, 200	75	75	75	75	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t) 単価(円/Kg)				
	【産地状況】 入荷先の主体は群馬、岩手となる。各産地とも生育は概ね順調で、平年並に潤沢な入荷となる見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.9%) 価格：前年をやや下回る。(△3.8%)						
ほうれんそう	2019年	576	903	735	1,011	1,011	群馬 38%
	2020年	678	828	830	816	838	栃木 36%
	2021年	704	782	621	764	955	茨城 10%
	2022年	643	850	731	895	952	岐阜 7%
	2023年	595	888	809	793	993	岩手 4%
	5ヵ年平均	639	847	743	851	947	
	2024年見通し	600	860	840	890	850	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t) 単価(円/Kg)				
	【産地状況】 入荷先の主体は群馬、栃木等となる。7月の高温の影響により、旧盆までは入荷量が少なく推移する見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.8%) 価格：前年をやや下回る。(△3.2%)						

名古屋市中央卸売市場

7月16日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2019年	608	526	509	550	530	北海道 43%
	2020年	726	511	605	544	424	長野 18%
	2021年	729	394	355	397	428	茨城 11%
	2022年	720	462	423	513	465	中国 6%
	2023年	691	430	391	483	441	静岡 4%
	5カ年平均	695	463	455	496	455	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	700	440	430	440	450		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
各産地とも今のところ順調な入荷を見込む。北海道のねぎは出揃いとなり増量傾向。長野の白ねぎは中旬以降増量傾向。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(1.3%) 価格：前年をわずかに上回る。(2.3%)							
しそ	2019年	2,762	161	170	143	168	長野 100%
	2020年	2,330	244	327	258	184	愛知 0%
	2021年	2,579	164	129	137	226	
	2022年	2,597	152	142	160	159	
	2023年	2,612	158	151	163	163	
	5カ年平均	2,576	174	181	170	180	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	2,550	155	150	155	160		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
長野の面積は微減。生育は順調で、L中心の見込み。但し、梅雨明け後の高温次第で入荷量は減少すると予想される。 【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに下回る。(△2.4%) 価格：前年並。(△1.9%)							
きゅうり	2019年	1,438	403	337	423	449	長野 59%
	2020年	1,742	401	405	393	405	北海道 21%
	2021年	1,560	288	169	268	474	岩手 5%
	2022年	1,516	300	263	304	337	山形 4%
	2023年	1,541	346	310	329	395	山梨 4%
	5カ年平均	1,559	348	299	344	412	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	1,500	345	340	330	370		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
各産地とも作柄は良好。上旬は順調な入荷となる。前進出荷のため、中下旬はA品率が低下するとともに入荷が減少し、高値になる見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに下回る。(△2.7%) 価格：前年並。(△0.3%)							

東京都中央卸売市場

7月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2019年	4,612	358	323	430	346	茨城 25%
	2020年	4,393	442	522	505	343	秋田 18%
	2021年	3,852	368	315	438	361	北海道 15%
	2022年	3,752	479	425	565	472	青森 12%
	2023年	3,855	450	383	510	469	山形 5%
	5ヵ年平均 2024年見通し	4,093 3,900	417 380	394 360	487 420	394 360	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>【産地状況】 入荷先の主体は茨城、秋田等となる。旧盆後は茨城産が終盤となり減少する一方、東北・北海道産が増量する見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(1.2%) 価格：前年をかなり下回る。(△15.6%)</p>					<p>数量(t) 単価(円/Kg)</p>
しめじ	2019年	9,759	176	157	214	164	長野 87%
	2020年	7,247	274	422	298	172	群馬 12%
	2021年	9,248	173	128	128	261	岩手 1%
	2022年	9,818	144	128	148	158	
	2023年	9,454	151	140	153	160	
	5ヵ年平均 2024年見通し	9,105 9,300	179 130	184 120	183 150	183 120	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>【産地状況】 入荷先の主体は長野、群馬となる。長野は生育順調で、上旬に出荷量がピークとなる見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(△1.6%) 価格：前年をかなり下回る。(△13.9%)</p>					<p>数量(t) 単価(円/Kg)</p>
きゅうり	2019年	8,375	277	209	267	362	福島 45%
	2020年	8,660	371	377	369	369	岩手 20%
	2021年	7,943	305	160	310	457	秋田 11%
	2022年	7,728	283	254	279	318	山形 4%
	2023年	8,061	317	284	286	372	青森 4%
	5ヵ年平均 2024年見通し	8,153 8,000	311 310	259 270	303 330	376 330	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>【産地状況】 入荷先の主体は福島、岩手等となる。各産地とも生育は概ね順調で、入荷のピークは上旬となる見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(△0.8%) 価格：前年をわずかに下回る。(△2.2%)</p>					<p>数量(t) 単価(円/Kg)</p>

名古屋市中央卸売市場

7月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な	2019年	964	306	350	277	296	愛知 32%
	2020年	897	399	477	418	327	山梨 26%
	2021年	752	339	297	324	393	徳島 14%
	2022年	845	286	295	283	280	群馬 9%
	2023年	781	358	337	361	385	長野 6%
	5ヵ年平均	848	337	354	332	333	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	770	350	340	340	370		
す	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>主産地の愛知、山梨の生育は順調であるが、酷暑で秀品率が低下する可能性がある。中旬は高温のため、数量不足となり高値が見込まれる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(△1.4%) 価格：前年をわずかに下回る。(△2.2%)</p>						
ト	2019年	1,501	437	378	422	512	岐阜 68%
	2020年	1,673	373	363	366	391	北海道 15%
	2021年	1,755	327	268	281	428	愛知 11%
	2022年	1,769	382	349	373	432	大分 3%
	2023年	1,977	358	344	335	387	長野 2%
	5ヵ年平均	1,735	373	339	353	427	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	1,850	360	340	360	380		
マ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>各産地とも順調な入荷を見込む。前進出荷となり、8月上中旬がピークとなる。盆明け以降入荷量は減少傾向となり、高値が見込まれる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をかなり下回る。(△6.4%) 価格：前年並。(0.6%)</p>						
ミニ	2019年	498	902	823	851	1,009	北海道 76%
	2020年	668	690	783	717	606	長野 9%
	2021年	638	579	493	488	740	茨城 3%
	2022年	571	755	706	756	788	愛知 3%
	2023年	582	656	643	626	694	青森 3%
	5ヵ年平均	591	708	685	680	755	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	590	650	700	600	650		
ト	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>北海道を中心に順調な入荷の見込み。生育はやや遅れ気味だが、8月上旬にピークの見通し。高温の影響で今後の生育は不透明。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(1.4%) 価格：前年並。(0.9%)</p>						

東京都中央卸売市場

7月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な	2019年	4,964	300	326	275	298	群馬 39%
	2020年	4,613	380	502	424	285	栃木 26%
	2021年	4,414	309	277	308	334	茨城 21%
	2022年	4,513	272	260	267	290	岩手 3%
	2023年	4,531	311	282	307	341	埼玉 3%
5ヵ年平均	4,607	314	330	316	309	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2024年見通し	4,500	310	290	320	320		
す	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t)			単価(円/Kg)	
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は群馬、栃木等となる。ハダニ類等の害虫の発生や高温による花落ち等が散見されるが、生育は概ね順調。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(△0.7%) 価格：前年並。(△0.3%)</p>						
ト	2019年	9,433	245	233	221	285	北海道 25%
	2020年	8,654	348	348	325	372	福島 19%
	2021年	8,199	314	252	276	407	青森 12%
	2022年	7,429	401	375	378	459	群馬 11%
	2023年	8,406	347	336	306	391	岩手 9%
5ヵ年平均	8,424	327	306	298	378	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2024年見通し	8,400	320	300	300	360		
マ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t)			単価(円/Kg)	
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は北海道、福島等となる。入荷量は上中旬は安定するが、下旬は高温による花落ち等により減少する見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(△0.1%) 価格：前年をかなり下回る。(△7.8%)</p>						
ミ	2019年	2,503	464	526	414	451	北海道 41%
	2020年	2,282	663	716	702	595	青森 18%
	2021年	2,211	579	484	515	735	千葉 10%
	2022年	2,038	728	680	741	769	岩手 9%
	2023年	2,164	653	604	627	719	福島 7%
5ヵ年平均	2,240	612	600	593	646	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2024年見通し	2,000	650	640	610	700		
ト	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t)			単価(円/Kg)	
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は北海道、青森等となる。北海道産は生育、着果ともに順調であり、入荷量は旧盆頃がピークとなる見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をかなり下回る。(△7.6%) 価格：前年並。(△0.5%)</p>						

名古屋市中央卸売市場

7月16日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピー マ ン	2019年	380	596	564	580	606	北海道 30%
	2020年	531	513	619	489	454	岩手 21%
	2021年	547	322	306	273	427	青森 20%
	2022年	473	428	434	485	452	茨城 11%
	2023年	392	512	477	530	547	長野 10%
	5カ年平均	465	464	475	459	488	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	400	440	420	450	450	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
上旬までは順調な入荷を見込む。中下旬は高温の影響から、入荷量は減少し、高値となる見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに上回る。(2.0%) 価格：前年をかなり下回る。(△14.1%)							
ば れ い	2019年	2,080	115	103	119	131	北海道 89%
	2020年	2,713	168	247	155	119	青森 6%
	2021年	2,240	157	136	148	175	静岡 4%
	2022年	2,038	145	145	142	150	長崎 1%
	2023年	2,031	160	183	160	137	
	5カ年平均	2,220	150	167	145	142	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	2,000	180	220	180	140	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道を中心に順調な入荷の見込み。生育は前進傾向で、中旬以降増加する。静岡は例年より在庫が少ない。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(△1.5%) 価格：前年をかなり上回る。(12.5%)							
た ま ね ぎ	2019年	4,651	107	108	111	106	北海道 60%
	2020年	6,168	103	132	104	82	兵庫 32%
	2021年	5,780	98	104	95	96	富山 3%
	2022年	4,892	136	142	144	122	愛媛 2%
	2023年	5,150	107	113	109	102	滋賀 1%
	5カ年平均	5,328	109	120	112	100	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	5,200	120	130	120	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道は順調な生育で上旬から入荷する。兵庫はL中心で盆前後に終了する。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(1.0%) 価格：前年をかなり上回る。(12.1%)							

東京都中央卸売市場

7月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2019年	2, 180	376	374	347	399	岩手 49%
	2020年	2, 543	468	667	422	392	茨城 21%
	2021年	2, 419	304	261	243	411	福島 17%
	2022年	2, 242	398	390	449	364	青森 7%
	2023年	2, 205	474	467	500	459	北海道 1%
	5ヵ年平均	2, 318	404	435	391	405	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	2, 200	440	460	400	460	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量 (t)				単価 (円/Kg)
	【産地状況】 入荷先の主体は岩手、茨城等となる。各産地とも生育は概ね順調。岩手産は旧盆頃に出荷がピークとなる見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(△0.2%) 価格：前年をかなり下回る。(△7.2%)						
じゃがいも	2019年	6, 104	124	142	123	111	北海道 90%
	2020年	7, 071	166	267	162	122	茨城 4%
	2021年	5, 052	161	131	153	185	千葉 2%
	2022年	4, 592	142	124	146	154	青森 2%
	2023年	5, 382	153	176	154	137	静岡 1%
	5ヵ年平均	5, 640	150	175	148	139	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	5, 400	150	140	140	170	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量 (t)				単価 (円/Kg)
	【産地状況】 入荷先の主体は北海道となる。北海道産は干ばつの影響で小玉傾向であるが、前年並の入荷量が見込まれる。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.3%) 価格：前年並。(△2.0%)						
たまねぎ	2019年	9, 221	88	92	88	84	北海道 72%
	2020年	9, 719	116	144	116	92	兵庫 16%
	2021年	10, 729	102	106	103	98	佐賀 6%
	2022年	9, 087	137	167	131	120	富山 3%
	2023年	8, 886	111	122	111	103	中国 2%
	5ヵ年平均	9, 528	111	126	110	99	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	8, 900	120	110	110	140	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量 (t)				単価 (円/Kg)
	【産地状況】 入荷先の主体は北海道、兵庫となる。北海道産の生育は順調で一部産地は前進傾向。肥大も良く、安定入荷が見込まれる。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.2%) 価格：前年をかなり上回る。(8.1%)						

名古屋市中央卸売市場

7月16日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2019年	8,607	434	428	431	453	長野 27%
	2020年	7,691	510	495	526	536	フィリピン 18%
	2021年	8,328	501	518	495	497	山形 11%
	2022年	9,401	499	537	478	477	愛知 7%
	2023年	8,845	515	533	473	515	山梨 6%
	5カ年平均	8,574	492	—	—	—	
2024年見通し	8,700	540	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	ぶどう、なし、ももなどを中心に入荷する。全体的に前進出荷となる見込み。旧盆に向けて価格は堅調な見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(△1.6%) 価格：前年をやや上回る。(4.9%)						
アーメロン	2019年	207	605	—	—	—	愛知 56%
	2020年	186	636	—	—	—	静岡 22%
	2021年	237	527	—	—	—	茨城 19%
	2022年	204	617	—	—	—	山形 2%
	2023年	196	584	—	—	—	高知 1%
	5カ年平均	206	591	—	—	—	
2024年見通し	200	600	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
メロン	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	7月の高温により焼けや割れが発生する可能性が高い。旧盆に向けて発注が増えるが、単価高で注文は微減の見込み。山形産は8月上旬から入荷の見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに上回る(2.0%) 価格：前年をわずかに上回る。(2.7%)						
すいか	2019年	2,284	170	163	181	178	長野 46%
	2020年	1,669	221	195	239	304	山形 40%
	2021年	1,736	215	231	225	178	青森 6%
	2022年	2,128	226	241	234	183	秋田 4%
	2023年	1,901	257	258	267	245	愛知 1%
	5カ年平均	1,944	216	216	227	214	
2024年見通し	1,800	255	250	250	260	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
いか	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	栽培面積は微減。7～10日の前進出荷が見込まれ、山形産は8月中旬にほぼ終了となる。 【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る(△5.3%) 価格：前年並。(△0.8%)						

東京都中央卸売市場

7月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2019年	35,795	432	407	431	470	山形 16%
	2020年	28,903	557	492	566	622	山梨 12%
	2021年	31,441	546	531	569	544	福島 9%
	2022年	32,502	557	554	574	546	長野 9%
	2023年	30,602	573	558	572	592	茨城 7%
	5カ年平均	31,849	530	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	29,700	580	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 なし、ぶどうを中心に入荷。ハウスみかんは佐賀が小玉傾向。シャインマスカットの入荷量は引き続き各産地増加。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに下回る。(△2.9%) 価格：前年並。(1.2%)</p>						
アールスメロン	2019年	565	643	593	758	635	茨城 32%
	2020年	516	737	632	846	755	静岡 30%
	2021年	650	591	656	670	485	青森 14%
	2022年	556	726	736	822	637	愛知 10%
	2023年	585	637	649	676	595	山形 9%
	5カ年平均	574	663	653	750	615	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	590	643	650	680	500		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 茨城、静岡、青森などから入荷する。静岡、茨城は高温の影響で品質低下が懸念される。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.9%) 価格：前年並。(0.9%)</p>						
すいか	2019年	9,732	179	170	185	200	山形 45%
	2020年	6,261	264	209	281	438	長野 15%
	2021年	7,316	239	245	248	209	秋田 15%
	2022年	8,339	241	250	237	212	神奈川 7%
	2023年	6,990	266	265	263	275	青森 6%
	5カ年平均	7,728	233	225	238	256	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	7,400	260	250	260	270		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 山形を中心に、長野、秋田などから入荷する。生育順調だが猛暑の影響が懸念される。大玉傾向となる見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや上回る。(5.9%) 価格：前年をわずかに下回る。(△2.3%)</p>						

切花・鉢花の8月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 8月1日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実 績	2019年	1, 8 8 5	5 7	
		2020年	2, 0 2 1	5 2	
		2021年	2, 0 0 8	5 9	
		2022年	2, 1 1 0	6 4	
		2023年	1, 6 3 4	6 5	
	5ヵ年平均		1, 9 3 2	5 9	
2024年見通し		1, 6 0 0	6 5		
く	概要	愛知、長野中心の入荷。梅雨明けからの高温で出荷が若干遅れ気味。盆需要に対しては後半からしっかりと入荷が伸びる見込み。盆明けに荷が残り、動きは鈍くなると予想される。			
小 ぎ	実 績	2019年	1, 7 7 1	3 9	
		2020年	1, 6 9 8	4 0	
		2021年	1, 5 9 7	3 9	
		2022年	1, 8 3 7	4 1	
		2023年	1, 3 1 9	4 7	
	5ヵ年平均		1, 6 4 4	4 1	
2024年見通し		1, 3 0 0	5 0		
く	概要	愛知、長野、埼玉、岩手からの入荷。梅雨明けからの高温で若干遅れ気味。盆需要の中、入荷量は少なめで盆後半まで入荷量は安定すると予想される。盆明けからの入荷は少ない見込み。			
カー ネー シ ョ ン	実 績	2019年	1, 3 9 1	4 1	
		2020年	1, 1 9 3	4 3	
		2021年	1, 0 2 7	4 4	
		2022年	1, 1 9 7	5 9	
		2023年	1, 0 5 3	6 0	
	5ヵ年平均		1, 1 7 2	4 9	
2024年見通し		1, 0 0 0	6 0		
く	概要	長野、輸入品中心の入荷。国産品はやや前進傾向にあったため、次のピークが盆の需要期に合わない可能性がある。輸入品は例年の7～8割の入荷の見込み。			
か す み	実 績	2019年	1 0 9	1 0 5	
		2020年	1 0 3	1 1 5	
		2021年	1 0 9	1 0 2	
		2022年	1 5 4	1 1 5	
		2023年	1 4 3	1 1 5	
	5ヵ年平均		1 2 4	1 1 1	
2024年見通し		1 5 0	1 1 0		
く	概要	福島、長野からの入荷。上旬は新植のピークとなるため、各産地出荷は多い見込み。数量次第では厳しい販売が予想される。			

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	2019年	3 6 6	1 5 5	
		2020年	2 8 8	1 7 5	
		2021年	2 4 4	1 8 3	
		2022年	3 1 2	1 9 3	
		2023年	2 7 3	1 9 8	
	5カ年平均		2 9 7	1 7 9	
	2024年見通し		2 7 5	1 9 5	
概要	<p>オリエンタルユリは新潟、岐阜、埼玉、北海道から入荷。全体的にやや前進気味となっているが、概ね順調な入荷が見込まれる。鉄砲ユリは兵庫、愛媛、長野から入荷。生育順調。LAユリは新潟、埼玉からの入荷。前年並の入荷予定。</p>				
洋らん	実績	2019年	4 1 7	8 9	
		2020年	3 1 7	9 4	
		2021年	2 9 4	1 1 0	
		2022年	3 3 1	1 2 9	
		2023年	1 9 1	1 6 7	
	5カ年平均		3 1 0	1 1 2	
	2024年見通し		2 0 0	1 6 0	
概要	<p>愛知、鹿児島、静岡などの国産に輸入品が入荷。カトレアは7月に比べ微減、コショウランは横ばいで不足感が強い見込み。シンピジウムは現地価格が高騰し、単価負けの状況。オンシジウムはハニーエンジェル中心に入荷は減少する。日照りと急激なスコール等の影響で立ち枯れが発生している。デンファレは昨年よりも入荷減、ソニア中心の入荷見込み。</p>				
ばら	実績	2019年	4 8 6	5 3	
		2020年	4 5 1	5 3	
		2021年	3 9 8	5 8	
		2022年	6 0 7	6 4	
		2023年	5 2 0	6 9	
	5カ年平均		4 9 2	6 0	
	2024年見通し		5 0 0	6 5	
概要	<p>山形、長野、愛知、岐阜を中心に入荷。後半は三重産が夏休み明けて入荷が始まる。輸入品も最終週から入荷が始まる見込み。</p>				
枝もの	実績	2019年	1, 5 0 5	7 0	
		2020年	1, 3 8 4	7 4	
		2021年	1, 3 9 9	8 3	
		2022年	1, 7 1 7	7 8	
		2023年	1, 3 4 7	8 5	
	5カ年平均		1, 4 7 0	7 8	
	2024年見通し		1, 3 5 0	8 5	
概要	<p>盆用のパンパス、アスター、リンドウなどの花材は前進傾向。山採り花木は高温のため、切った先から水が下がりするので入荷量は控えめ。盆明け以降の秋出荷物の品質が心配される。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ア ン ス リ ウ ム	実 績	2019年	10,825	926	
		2020年	12,611	905	
		2021年	10,776	912	
		2022年	11,722	989	
		2023年	8,996	945	
	5カ年平均		10,986	935	
	2024年見通し		8,500	900	
概要	<p>入荷量は前年よりやや減少か。最近の商品の単価安や海外からの苗の高騰により生産量は減少の見込み。8号以上の需要が少なくなっているため、6号以下の出荷が増える見込み。色別では、今年はピンク花が厳しい状況となっている。</p> <p>前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(85.0%)、2位長崎(7.0%)、3位滋賀(4.4%)となっている。</p>				
シャ コ バ サ ボ テ ン	実 績	2019年	5,058	394	
		2020年	7,387	388	
		2021年	6,975	395	
		2022年	5,298	450	
		2023年	4,538	475	
	5カ年平均		5,851	415	
	2024年見通し		4,500	478	
概要	<p>入荷量は概ね前年並か。お盆過ぎ頃から本格的な出荷が始まる予定。ポットサイズ、3.5号や4号に引き合いが集中する見込み。5～6号、それ以上の7～10号サイズは敬老の日の需要が見込まれるため、月末から8月初頭にかけて徐々に需要が高まる見込み。</p> <p>前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉(84.8%)、2位愛知(15.2%)となっている。</p>				
バラ 及 び ミ ニ バ ラ	実 績	2019年	4,153	110	
		2020年	6,075	119	
		2021年	2,308	139	
		2022年	2,003	172	
		2023年	4,758	135	
	5カ年平均		3,859	129	
	2024年見通し		4,000	130	
概要	<p>入荷量はかなり減少か。近年の夏の高温の影響や病気等が発生しやすいことや夏場の相場の厳しさが要因か。周年生産の産地である岐阜と愛媛を中心に、3～3.5号が中心となる見込み。今夏も気温が高いことが予想され販売は苦戦する見込み。生産量は減少しても夏の高温により、価格の維持は難しいと予想される。</p> <p>前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位岐阜(51.8%)、2位愛媛(39.8%)、3位茨城(5.9%)となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
オンシジウム	実績	2019年	1,092	597	
		2020年	1,302	840	
		2021年	1,328	692	
		2022年	1,493	497	
		2023年	829	817	
		5ヵ年平均	1,209	676	
	2024年見通し	820	826		
概要	<p>入荷量は前年並か。物量は少なく中値安定の動きと予想される。6号前後の3本寄せ中心の入荷となる。時節柄、咲き前には注意して固めの出荷を希望。 前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(71.1%)、2位高知(28.1%)となっている。</p>				
スパフェイラム	実績	2019年	2,420	296	
		2020年	2,872	274	
		2021年	2,277	503	
		2022年	1,701	438	
		2023年	2,560	326	
		5ヵ年平均	2,366	357	
	2024年見通し	2,500	328		
概要	<p>入荷量は前年よりわずかに減少か。コスト高により生産量は減少の見込み。出荷サイズは4号が中心で次に5号、6号の生産が多いと予想される。需要の減少が見込まれるため、花上がりが良い商品を希望。 前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位三重(43.4%)、2位愛知(24.1%)、3位岐阜(22.1%)となっている。</p>				
ドラセナ	実績	2019年	14,216	687	
		2020年	19,824	832	
		2021年	16,396	1,165	
		2022年	14,780	1,022	
		2023年	8,334	1,163	
		5ヵ年平均	14,710	954	
	2024年見通し	8,000	1,100		
概要	<p>入荷量は前年よりやや減少か。輸入原木の高騰で原木の仕入れが減少しており、生産量・出荷量が共に減少の見込み。コンシンネは特に生産量が減少している。尺鉢サイズの需要も減少し、相場が厳しく、8号以下の出荷がメインになると思われる。 前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(55.2%)、2位沖縄(14.5%)、3位鹿児島(10.9%)となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.614
2024年8月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434